育てあい、育ちあう

広報 NO6

わかば

２０２１年秋号

社会福祉法人わかば会

盛岡市西松園３丁目１９－６
発行責任者　鈴木浩太郎
☎：０１９－６６１－３１０３
fax: ０１９－６６２－５１２１
http//www.wakaba-kai.or.jp

法人の理念

＊ 社会福祉法人わかば会は、子どもの人権を尊重し保護者と協力しながらその健やかな成長のために尽くすとともに、保護者が安心して子どもを預け働ける環境づくりに努めます。
＊ 未来の主人公となる子ども達の権利を尊重し、豊かな乳幼児期を保障することを基本とし、保護者の皆様と一緒に保育を創っていくことを大切にしてまいります。
＊ 子どもが本来持っている能力を引出し、豊かな感性を育み、一人ひとりが仲間の中でゆっくりじっくりと自分を育てていけるような保育環境づくりに努めます。
＊ 子育て支援や地域福祉の向上を目指し、地域の子育ての拠点となるよう努めます。

法人運営施設

■わかば保育園　■本宮保育園　■うえだ保育園
■北松園風の子保育園
■がんちゃんすくすく保育園
■宇宙学童クラブ　■ 第二宇宙学童クラブ

風の子保育園　みんなで頂上まで登ったぞー

わかば会40周年に想う

古い書棚を整理していたら思いがけず、新聞の切り抜きと一緒にわかば保育園の前身である懐かしい無認可保育所の資料がでてきました。

新聞の切り抜きは、岩手日報など大手３紙のもので「母さんパワーが爆発、市長を囲む懇談会」「無認可保育所、この窮状」との大きな見出しと「次から次と要望が飛び出し、さながら会場は母親パワーが爆発した雰囲気に包まれ、受けて立った工藤巌市長も圧倒されがち」と記されていました。

当時、市内認可保育園のゼロ歳児の定員は１００人足らずで、母親たちは仕事を辞めるか無認可保育所に預けるかしかなく、無認可は高い保育料と保育士は想像もつないほどの低賃金の時代でした。止むにやまれず、１９７４年５月２９日、市内１７カ所の無認可保育所の母親、保育士、経営者１５０人ほどが、市役所に詰めかけ市長への直談判を決行。この中心を担ったのがわかば保育園(無認可)でした。

この直談判を機に無認可施設への助成、認可化をめざす施設への措置が執られ、その後、幾多の紆余曲折を経て１９８１年４月、社会福祉法人わかば会わかば保育園が開園しました。

４０年の時を経て保育を取り巻く環境は大きく様変わりしました。福祉としての保育は市場化の掛け声とともに公的責任が後継に押しやられ、保育制度はより複雑化し安上がりの保育へと変貌させられています。

運動を通して現状を変える民主保育園としての「わかば」の歴史に学びつつ、次世代へと継承・発展されるよう「母さんパワー」に関わった一人として尽力しなければと思っています。

社会福祉法人わかば会
常務理事　鈴木禮子

運動会

あきらめずチャレンジ

今年は、県独自の緊急事態宣言のため、乳児・幼児別日開催、観客数の制限や入れ替え制、プログラム短縮等、感染対策を講じながらの開催になりました。

年長・年中児は、クラスみんなで目標を決め協力し合い、自分一人でなくみんなと一緒にがんばった運動会。思い通りに行かず悔し涙を流す事もありましたが、クラスの枠を超え、園のみんなが応援する中で自信をもち取組みました。

年長児は、口唱歌を唱えながら地面を踏みしめ、コロナを追い払う意味も込め〝鬼剣舞〟を披露しました。小さい頃から憧れていた事もあり、足・腰・腕に力を入れ、息を合わせて踊っていた子ども達です。

小さい仲間の運動会では、青空の下、寝返りやハイハイ、ゆったりとわらべ歌を楽しんだ0歳児。ジャンプや車を押し探索が楽しい1歳児。2歳児は、大好きなアリになって様々な運動あそびに挑戦し、最後は力を合わせてアリジゴクをやっつけ自信満々でした。　風の子保育園

わかば保育園(５歳児)
只今　逆上がりに挑戦

風の子保育園(５歳児)
鬼剣舞「刀くぐり」

風の子保育園(１歳児)
びょんびょん橋「ヤッホー」

8月　平和のつどい　はじける夏

本宮保育園(５歳児)
絵本「ぞうれっしゃよはしれ」に夢中

ー心も体も開放したっぷりと遊び「平和」について学ぶ8月ー

8月6日は、4・5歳児を中心に恒例の平和のつどいを行いました。この日は、広島に原子爆弾が落とされ、たくさんの人の命が失われた日です。子どもたちは「ぞうれっしゃよはしれ」「サーカスのうた」「折り鶴」「夜明けを告げる子どもたち」などの絵本やうたを通して平和について学びあいました。

戦争のある世の中では、安心して暮らせない。子どもたちに戦争のない平和で明るい未来を願い、語り歌い続けていきたいと思います。

また8月はたっぷりと水あそびやプール活動を楽しみました。小さいクラスは、水あそびから泥んこあそびになり、砂場は泥んこプールに変身！。お友だちといっしょが楽しくて「もういっかい」と「楽しい」を表現する子どもたちです。大きいクラスは、「水に顔を付けられるようになりたい」「伏し浮きができるようになりたい」と自分でプール活動の目標をきめ、クラスのみんなで励ましあいながら取組みました。

本宮保育園

風の子保育園
今年の夏も水となかよしになりました。

本宮保育園(１歳児)
水もどろんこも大好き

がんちゃんすくすく保育園

交流の秋

がんちゃんすくすく保育園は、0歳児のおともだちが2名仲間入りして11名の在籍になりました。

秋は、一年の中でも収穫が楽しい季節です。大学の構内には大きな柿の木があり、植物園や理工学部に今年もたくさんの柿が実をつけました。そこで、姉妹園でもあるうえだ保育園のお友だちと理工学部の柿もぎを楽しみながら今年も交流することができました。

大きいお兄さん、お姉さんから素敵な歌を教えてもらい、保育園に帰ってからすぐまねっこして歌っていました。

また、秋の一日、紅葉を楽しみながら高松の池の芝生の広場まで散歩に出かけ、うえだ保育園の1、2歳児のおともだちと一緒に遊び、「やまびこさん」の歌をかけあいながら楽しみました。

「また、あそぼうね♪」と会える日を楽しみにしているがんちゃんの子どもたちです。

また一緒に遊ぼうね♪

住所　上田３－18－14
☎　019-601-3822

高松の池

うえだ保育園1・2歳児

あっ！！かもさんいたねー

9月 心も体もたくましく 姫神登山

１９人の仲間と頂上をめざした姫神登山！

まずは大きな一本杉が見えてくるとその大きさにビックリ！大きく見上げた後、一本杉に耳をあてると「ドクッドクッ」と、木の鼓動を感じ、自然の力をもらって登り始めました。次はざんげ坂、登っても登っても階段が続きます。しかし、そんな苦しい時こそ「おーい！だいじょうぶかー」「もうすぐ階段が終わるよー」と、仲間と声を掛け合いながら５合目に到着です。そこからはみんな身軽に登り切り、大きなクジラ岩のある８合目を過ぎると最大の難所の岩場です。

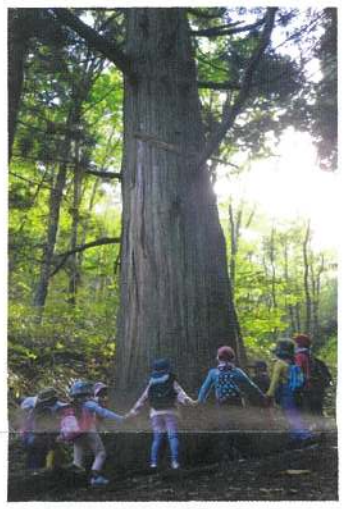
風も吹いてきて一瞬たりとも油断できませんが、こどもたちは全身の力を使って岩場を登り切り、見事１１２３ｍの姫神山頂上到着です。

風が吹き眼下は雲に覆われていましたが、一瞬の雲の晴れ間から現れたのは３６０度大パノラマの見渡す限りの絶景でした。

仲間と共に声を掛け合い、励まし合って登りきった子どもたち。寒風に襲われながらも、しっかりと立ち、岩手山と姫神山の偉大さを全身で感じた登山でした。

わかば保育園

風の子保育園(５歳児)
まちが小さく見えるね



風の子保育園(５歳児)
大きな一本杉。１５人で抱えてちょうどの大きさだね。

わかば保育園　くじら岩で

10月 みのりの秋

うえだ保育園　どのりんごが大きいかな”

みのりの秋到来！おいしい秋がやってきた

田んぼの稲が黄金色に光り、収穫時期を迎えました。今年はお米の粒の付きも良かったようです。稲刈り当日、たいよう組の子ども達は大喜びで稲を刈り取り、園中の子ども達に手伝ってもらいながら６・６kgを脱穀。すり鉢とソフトボールで籾すりをした玄米は、瓶と棒で精米してやっと子ども達の口に入ります。

うえだ秋祭りは、秋に採れた収穫物が並びます。じっくり土鍋で炊いたおかゆ、畑でとれた大根のふろふきなどを味わいました。

また、岩大理工学部の柿で作った「干し柿」や畑の大根で作った「大根の塩こうじ漬け」、りんご狩りやお米の籾すり、ダイコン、さつまいも掘りを再現した『体験コーナー』も並びます。

実りの秋の楽しくおいしい“生の体験”が、子ども達の遊びにつながっていくのですね。この“秋の本物体験”は、子ども達の心も身体もたっぷりと満してくれたようです。

うえだ保育園

(左) わかば保育園(５歳児)
大根堀り
(右)うえだ保育園
はせ掛け

宇宙学童クラブ

もうすぐ寒い冬がやってきます

夏休みに低学年と高学年に分けて遠足を計画したものの雨天のため中止。暑い長い夏休みは、室内でペットボトルを使った水鉄砲や水竜巻(写真)を作って水遊びをしたり、保育園の縁日ごっこに参加し、シャボン玉のお店やお面屋さん、虫屋さんをしながら保育園の子どもたちと交流しました。

秋は、学習発表会の振替休日に高松公園まで遠足。長い距離を歩くことに不安もありましたがさすが宇宙っ子たち。さっそく鬼ごっこや高松公園の広い芝生で走り回り、白鳥や鯉、すてきな紅葉を満喫しました。

６年生は、昨年に続き盛岡散策を楽しみながらのお泊り会を経験しました。６年間、学童で一緒だった仲間との時間は、学童ならではの深い心のつながりを改めて認識し感心しました。

１～６年生まで通う学童保育は、子ども同士の関係を大切にしながら、これからも子どもたちと一緒に過ごしていきたいと思います。

高松公園
全員が無事到着！

住所：西松園３－１８－１２
☎：019-662-1113

わかば会の動き

※キャリアアップ研修が始まりました。
昨年度はコロナ禍で開催が見合わされていたキャリアアップ研修がこの10月から来年２月までの予定でスタートしました。キャリアアップ研修は、臨時職員の正職員化を目的に行われており、今年度は7名の保育士が受講しています。

※新人職員研修
今年度採用の職員に対して、わかば会のしくみや歴史、職員としての心得やわかばの保育など多岐にわたり行っています。

（キャリアアップ研修風景）

※民舞・リズム・年齢別研修など

※10月22日、わらび座による「荒馬」をＷＥＢで行いました。

※10月22日、盛岡市が社会福祉法人指導監査を実施。
法人の運営について法令に従って運営されているかなど監査が行われ、良好に運営されているとの評価をいただきました。

広島保育合研の報告

第５３回広島保育合研が、「コロナ禍で考える保育と私たちの未来を」テーマに７月３１日～８月１日開催されました。今年もＷＥＢでの開催となりましたが、わかば会からは７７名の職員が参加しました。

１日目の子育てフォーラムに続き、２日目の分科会では「２歳児の保育」分科会で赤澤里歩保育士が、「３歳児の保育」分科会では高橋美咲保育士が実践発表を行いました。

実践発表の赤澤保育士

地域社会に貢献できる法人でありたい
中長期計画について

社会福祉法人わかば会
常務理事　佐藤秀子

１０月６日～７日の２日間、いわて情報交流センターアイーナで岩手県立大学主催の社会福祉法人役員研修が開催。講師は宮古市若竹会の常務理事菊池俊則氏、青森市和幸園理事長今村良司氏で岩手県内の社会福祉法人関係者３０人余りが参加しました。

研修内容は、菊池氏から「社会福祉法人経営の基本ポイント」「社会福祉法人の中長期計画」。今村氏から「人口減少、コロナ禍における社会福祉法人の活動」です。

まず、主催者の宮城教授より「社会福祉法人をどのように継続させるのか１０～２０年のスパンで考える時期にきている。持続可能には、どういうことが必要なのか中長期計画を具現化してほしい」という挨拶からはじまりました。

全体研修「社会福祉法人経営の基本ポイント」では①法人の客観的な状況（地域、人口、産業、実施状況、業界の役職など）の把握、②運営から経営に換わった社会福祉法人制度の変遷に対応する　③独自の経営論（経営、事業、財務、人事）を確立する　④社会福祉法人の高い公益性を考え対象者は幅広くとらえることなどについて学びました。

中長期計画作成の演習は
①基本理念・方針設定　②外部環境　③戦略課題　④ＳＷＯＴ分析表　⑤経営戦略　⑥中長期計画書　⑦資金計画書　⑧短期計画書の８項目のシート記入をしながら行いました。

わかば会においても数年前より中長期計画が必要ではないかと機会があれば研修に参加したり、他の法人の計画を学習したりしてきました。

今回、鈴木礼子常務理事と参加し、改めて中長期計画作成の必要性、状況分析を的確に行うことなど具体化への過程を学ぶことができました。

わかば会としても委員を中心に中長期計画を作成し、これからも地域社会に貢献できる法人でありたいと思います。

給食室

保育園で人気のおやつ　ひゅうず

◎材料　（４人分）

小麦粉　250ｇ
熱湯　カップ１+1/2
黒砂糖　25ｇ
みそ　大さじ1

作り方

①黒砂糖にみそを混ぜておく
②小麦粉に、煮立った熱湯を入れ、はしで素早くかき混ぜ、耳たぶ位の固さにこねる。
③②を8個に分けて直径10㎝位の円形にのばし、なかにみそをいれて二つに折りたたみ、合わせ目を押さえて半月状にする。
④たっぷりのお湯で茹で、浮き上がったらざるに上げてさます。

シリーズ　わかばの保育⑤

今号はわかばの保育が大切にしてきた「給食」について、食事づくりで大切にしていることを紹介します。
（わかばの保育抜粋）

①**農薬、添加物の少ない食品を選び使用する**ー子どもたちの健康な体づくりの基本は、安全な食品をとることです。野菜などは殺虫・殺菌、除草剤の使用や成長促進用の農薬、消費者への見栄えを考慮し、化学薬品や添加物などが使われており、人体への影響や安全上に問題があります。

保育園では、薬品や添加物のないもの、もしくは極力少ない食材、国産の果物を選んでいます。子どもたちが食品本来の味、食感、匂い、色などを体験、実感し健全な五感が育まれるようにしています。

②**インスタント、調理済みの冷凍食品は使わない**ー保育園では煮干し、鶏ガラなどからダシをとり、飲み物は、水、麦茶、牛乳に限定し、市販のジュースなどは一切使用していません。

③**過剰に精製された食材は使わない**ー白米、白砂糖、食塩はできる限り使用していません。米は繊維や胚芽が多く残る五分搗き米、砂糖や塩はミネラル分を多く含むものを使用しています。

④**おやつは手作り**ーおやつは手作りで市販のもの出来合いのものは一切使いません。子どもにとっておやつは主食を補うものであり楽しみの一つです。「軽食」にしたり、郷土料理を取り入れることもあります。

⑤**食品本来の味が感じられ、噛む力を獲得できる切り方や味付けをする**ー子どもたちが食品本来の味や香りを経験することで味覚が育まれる時期の子どもたちが、食育活動の一環として行事食を大事にしています。

⑥**発達に対応した食器と安全安心な調理器具を使用する**ー食器は本物の感触が味わえるよう陶製のごはん茶わん、木製の汁椀（大野木工）を用いています。落とすと割れる、破片で怪我をすることも体験しながら「ものを大事に扱う」ことに気付くことの方が重要です。箸は木製か竹製に。調理用具の鍋やざるは鉄製かステンレス製にしています。

⑦**旬の食材で和食を主体に、伝統食、郷土食を採用する**ー古くから伝わるメニューや季節の食材を取り入れ、一汁三菜の和食を定番に全てを手作りしています。食育活動の一環として行事食を大事にしています。

「おいしさ」を知り、健全な五感を獲得できるようにしています。

また、自分の一口の大きさを獲得し、噛む力を強くするため、食材の切り方を工夫しています。

保育基準の抜本改善署名
ご協力をお願いします

全国保育団体連絡会が、毎年秋に保育予算の増額や保育施策の拡充を求める国会請願署にとりくんでいます。昨年度は約138万筆を国会に提出しました。

第203回国会（2020年12月）では「ゆとりある保育の実現を求める請願」が採択され、保育問題が政治的にも重要な課題になりました。コロナ禍でケア労働の実態が明らかになる中、保育基準の抜本的改善が急務となっています。今年も署名へのご協力をお願いします。

あとがき

１１月２２日付けの岩手日報論説「働き方に見合う改善を」との見出しで、保育・介護の現場で働く人たちの労苦に見合う賃金引き上げについて取り上げていました。

論説は、政府が経済対策として保育士や介護職の賃金を月９千円（３％程度）引上げ、実施を急ぐというが、果たしてこれが経済対策として実感できるのかどうか？「公的価格」の改定こそが必要だという内容です。

保育士の平均月収は産業平均より７～１０万円程度低いとの調査結果もあり、保育現場は厳しい労働条件の割りに低い賃金待遇で慢性的な人手不足です。

コロナ禍で保育所の最低基準（１９４７年制定）の矛盾が噴き出し社会問題になっているなか、公定価格の基礎となる最低基準の抜本的な見直し・改善こそが「働き方に見合う改善」への最速の道では・・　（礼）